後に続く者のために
——功績賞を受賞して——

原口忠次郎

大正5年7月　京都帝国大学工科大学土木工学科卒業
大正8年8月～昭和 32 年6月
内務技師，新京国道建設処長，神戸土木出張所長，中国四国土木出張所長，神戸市局長，復興本部長市助役，参議院議員，全国市長会会長，等を経て，神戸市長として，昭和 24 年 11 月から現在に至っております。土木学会においては，昭和15年，16 年関西支部商議員，23 年度支部長として学会運営のため尽力せられたのであります。

神戸ポートアイランド建設の第2回マルク債発行の調印を無事ドイツですませ，羽田に帰着したら，思いがけず土木学会功績賞が私に与えられることを知った。半世紀にわたる土木技術者としての私の生涯で最高の栄誉を受けた感激に，私は胸が熱くなり，そして面映ゆさを禁じえなかった。日をへて，受賞の喜びがいっそう深まるとともにこの面映ゆさは，ますます強くなっていくのである。一介の土木技術者の私に，かりに功績と言えるものがあったとしたら，それは大半は恩師，先輩の薫陶そのものに帰する。大学の恩師平野先生，荒川放水路工事に従事した頃の比田，中川，真田の諸先輩，満州時代の藤根，直木先輩など，多くの良き師，良き上司，先輩が，時に当り，折にふれ，それぞれ持てるすべてのものを後に来る者に継承させようとされた何分の一かの成果が，私の仕事として，今日過分の評価を得たものと考えないわけにはいかない。平野先生に教えられた工事のオーバー・ストロングのこと，比田さんから奉職早々に叱責された土木技術者根性の不足，中川さんのオン・ザ・ジョブ・トレーニング，真田さんの終生研究，万事創意の指導，藤根さんに開眼を受けた近代土木工事の要諦。これらの教訓は，今もなお私の技術者としての血肉となり，市長としての神戸の新しい都市づくりの指針として生きている。戦前，満州で新京工学院をつくり，戦後，原口育英会を設けて，いささか私が先輩から受け継いだものをつぎの若い世代の技術者に伝えようとしている私の努力に，今度の功績賞は励ましとして与えられたと考えるべきかも知れない。

功績賞を受賞して

永田　年

大正 11 年3月　東京帝国大学工学部土木工学科卒業
大正 11 年4月～
台湾総督府技手，内務技師，京都府鴨川改修事務所長，満州国交通部技正兼遼河治水調査処所長，東北振興電力KK土木部計画課長，日本発送電KK技師，水力試験所長，日本発送電KK新居浜出張所長，同社四国支店土木部長，同社東海支店土木部長，同社北陸支店長，同社理事，同社北海道支店長，北海道電力KK取締役副社長，電源開発KK理事，同社佐久間建設所長，同社秋葉建設所長，国際大ダム会議副総裁，日本 ACI 会長，日本コンクリート会議会長，中央建設工事紛争審議会委員，河川審議会委員，技術士審議会委員，（社）日本大ダム会議会長を経て，現在は東京電力KK技術顧問，のほか多数の要職におられます。
また，昭和 31 年藍綬褒章を授与されております。
土木学会においては，昭和14年関西支部商議員，昭和 27 年北海道支部長，昭和 36 年第 49 代会長として学会運営のため尽力せられたのであります。

このたび，土木学会功績賞をいただき，身にあまる光栄に感激いたしております。私は港湾，道路，橋梁，河川，水力電気関係の土木工事を，南は台湾から，北は北海道まで，あらゆる自然現象の中で，経験し，ついで佐久間，田子倉，奥只見，御母衣その他多くのダムの計画と施工に，直接または間接に関係して，昔の経験がいかに貴重なものであるかをしみじみと感じたのであります。道路，橋梁のようなダムに無縁のものまで，その経験は大いに役立ったのであります。

人それぞれ環境に相違はありますが，一般的にみて，長い人生の間には，いろいろの工事を担当させられるものでありますから，漠然たる経験でなく，その工事の計画，設計，施工の要点を会得することが肝要であって，こうした経験の積み重ねが土木技術者としての幅を広げる所以であると私は信じているのであります。

功績賞を受賞した機会に，所懐の一端を述べさせていただきました。